

漁業経済学会 短 信

【会長就任のご挨拶】

三木 奈都子（水産研究・教育機構）

新たに会長に就任いたしました三木です。一言ご挨拶を申し上げます。2019年から2025年までの三期6年間、代表理事・会長として当学会を力強く引っ張ってこられた鹿児島大学水産学部教授の佐野元会長から、会長のバトンを受け取りました。佐野元会長の最大の成果は、それぞれ長い歴史を持つ漁業経済学会と北日本漁業経済学会を統合させたことです。会長就任後から着実に準備を進め、2023年9月1日に統合を果たしました。旧北日本漁業経済学会は漁協系統や行政からの参加も多く、東北や北海道の具体的な漁業経済問題を主として政策面から取り上げ、社会に開かれた学会活動を展開させてきた学会です。学術の探求を活動の中心としてきた漁業経済学会と上記の旧北日本漁業経済学会との統合は、学術面はもとより産業界にとっても非常に有意義な統合であったといえます。

第一期目には、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により通常の大会開催が危ぶまれるというこれまた初めてのことに対応されました。検討の結果、2020年度、2021年度は大会のリモート開催により学会活動を維持しました。それ以降はこのリモート開催の経験を活かし、対面・リモートのハイブリッド開催を定着させていきました。さらに任期一期目に故秋谷先生から、二期目に故加瀬先生から多額のご寄付をいただいたことにより、会費の引き下げや学生会員の無償化などの改革を進められました。その成果として、現在、学生や産業界、行政機関からの入会者の増加が示されつつあります。それだけでなく、過去の「漁業経済研究」掲載論文の電子化を進め、学会HPからこれまでの論文を閲覧できるようにし、また、学会の事務作業や編集委員会作業の省力化についても道筋をつけてくださいました。

さて、私が当学会に入会したのは1992年であり、既に30余年が経過いたしました。新しい学問分野に足を踏み入れたばかりで戸惑うなか、学会でお会いした諸先輩方から応援やご指導をいただきフィールドにも連れていっていただき、徐々に漁業経済学という場でやっていけるという感覚を得られるようになったことを新鮮な思いで思い起こされます。それらが本当に貴重なことであったといま実感しています。あつという間の30余年です。

思いがけず会長という立場になり、統合した学会の体制を安定したものに整えていきたいと思います。まずは、北日本漁業経済学会の活動を引き継いだ北日本漁業研究会と漁業経済学会のもう一段のすり合わせを行います。また、現在、それぞれが研究者や大学教員という本業を持ちながら、ボランティアで学会の事務作業を必死に行っています。今のまま学会事務作業のエフォートが高いままであると、今後、事務作業を担ってくれる後進の学会員にも負担をかけるばかりです。持続可能な学会運営を行っていくためにも、佐野元会長に道筋をつけていただいた学会事務作業や学会誌編集作業の省力化に向けて、体制を整えて行きたいと思っています。入会促進や、会員、特に若手会員の活動促進を行い、学会活動の維持・発展に努めてまいりたいと思います。小規模学会ながらご寄付により現時点では財政面での安定性があるという優位点を活かしながら、統合した当学会を安定化させて軌道に乗せていくことが、私の使命であると考えております。

漁業をとりまく技術や経済環境、人々の暮らし方等が大きく変化し、漁業経済研究の範囲も変容しているように感じられるものの、漁業という自然と調和した食料生産産業の本質はこれまでと何ら変わら

ず、むしろ社会における漁業経済研究の重要性は増しているように思います。諸先輩方の遺志を受け継ぎ、適正な研究倫理を尊重し、自由闊達な議論やオープンで寛容な学術の雰囲気を守り、かつ誠実に変わりゆく産業界に向き合い、貢献できる学会であり続けたいと考えています。これからの約二年間、会員の皆様のご協力をいただきたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

【学会の運営体制】

1. 執行部

会長：三木奈都子（水産研究・教育機構）

副会長（総務）：副島久実（摂南大学）

副会長（会計）：工藤貴史（東京海洋大学）

※HP 管理・渉外は廃止し、会長と副会長（総務）が担当することとする。

2. 編集委員会

編集委員長：久賀みず保（鹿児島大学）

編集委員（在京）：三木奈都子（水研機構）、工藤貴史（東京海洋大学）

編集委員（地方）：久賀みず保（鹿児島大学）、佐野雅昭（鹿児島大学）、副島久実（摂南大学）、植田展大（立命館大学）

3. シンポ企画委員会

三木奈都子（水研機構）、佐野雅昭（鹿児島大学）、櫻井政和（水産庁）、常清秀（三重大学）、鈴木崇史（鹿児島大学）、副島久実（摂南大学）、刀禰一幸（水産大学校）

4. 学会賞選考委員会

委員長：三木奈都子（水研機構）

継続：末永芳美（任期 2026.5 まで）

新委員：佐々木貴文（北海道大学）、工藤貴史（東京海洋大学）、植田展大（立命館大学）、望月理生（東北学院大学）、大谷 誠（水産大学校）（任期 2027.5 まで）

5. 理事

今川恵、植田展大、大谷誠、大西学、久賀みず保、工藤貴史、黒沼吉弘、児玉工、佐々木貴文、佐々木稔基、佐野雅昭、常清秀、末永芳美、鈴木崇史、副島久実、竹ノ内徳人、田坂行男、刀禰一幸、鳥居享司、西村絵美、東村玲子、廣田将仁、藤井陽介、古林英一、甫喜本憲、牧野光琢、松井隆宏、三木奈都子、望月理生、若林良和

6. 監事

馬場 治、玉置泰司

【第72回大会総括】

〈報告事項〉

2024 年度事業報告

(1) 渉外関係

特になし

(2) 組織・会員動向

1) 2024 年度会員移動

① 2024 年 6 月 15 日付の会員現勢

個人会員 224 名（一般 209 名、学生 15 名）

賛助会員 3 名（日本経済新聞社、国立研究開発法人水産研究・教育機構、北海道宗谷総合振興局）

② 2024 年度退会者

正会員 9 名（有坂哲夫、江頭潤一、大越俊也、亀田和彦、日高健、松浦勉、村上陽子、山田幹雄、若林勉）

③ 2025 年 3 月 31 日付の会員現勢

個人会員 227 名（一般 205 名、学生 22 名）

賛助会員 3 名（日本経済新聞社、国立研究開発法人水産研究・教育機構、北海道宗谷総合振興局）

団体会員 19 名（全国漁業共済組合連合会、東京水産振興会、漁港漁場漁村総合研究所、日本水産油脂協会、青森県漁業協同組合連合会、秋田県水産振興センター、佐呂間漁業協同組合、根室湾中部漁業協同組合、野付漁業協同組合、歯舞漁業協同組合、福島県漁業協同組合連合会、農林中金総合研究所、北海道機船漁業協同組合連合会、北海道漁業共済組合、北海道漁業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組合連合会、湧別漁業協同組合、網走漁業協同組合、JF マリンバンク部）

2) 2025 年度入会希望者

① 一般会員 3 名

森川綾子（水産庁）

櫻本和美（東京海洋大学）

雲見昂平（水産庁）

② 学生会員 2 名

原弥優（鹿児島大学大学院農林水産学研究科）

鄭允弼（摂南大学）

③ 2025 年 5 月 29 日付の会員現勢

個人会 222 名（一般 201 名 学生 21 名）

賛助会員 3 名（日本経済新聞社、国立研究開発法人水産研究・教育機構、北海道宗谷総合振興局）

団体会員 19 名（全国漁業共済組合連合会、東京水産振興会、漁港漁場漁村総合研究所、日本水産油脂協会、青森県漁業協同組合連合会、秋田県水産振興センター、佐呂間漁業協同組合、根室湾中部漁業協同組合、野付漁業協同組合、歯舞漁業協同組合、福島県漁業協同組合連合会、農林中金総合研究所、北海道機船漁業協同組合連合会、北海道漁業共済組合、北海道漁業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組合連合会、湧別漁業協同組合、網走漁業協同組合、JF マリンバンク部）

(3) 学会誌編集関係

【2024 年度 編集委員会報告】

1) 編集委員会の開催

●2024 年度編集委員会体制

委員長： 副島久実（地方）

編集委員： 工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）、宮澤晴彦（在京）、久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、

●編集スケジュール

	発行号		備考
	1 号	2 号	
原稿投稿締め切り	7 月 20 日	1 月 20 日	受付日
編集委員会	7 月末	1 月末	
査読			
査読結果回収	8 月末	2 月末	
編集委員会	9 月初旬	3 月初旬	掲載可の場合、受領日
審査結果送付			
修正稿提出締め切り	10 月末	4 月末	
編集委員会	11 月初旬	5 月初旬	掲載可の場合、受領日
発行・送付	1 月中旬発行	6 月中旬発行	

●実施状況（オンライン）

第 1 回編集委員会（2024/7/29）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）、宮澤晴彦（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

第 2 回編集委員会（2024/9/15）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）、宮澤晴彦（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

第 3 回編集委員会（2024/11/7）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）、宮澤晴彦（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

第 4 回編集委員会（2025/1/29）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

第 5 回編集委員会（2025/3/17）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

第 6 回編集委員会（2025/5/21）

出席者：工藤貴史（在京）、三木奈都子（在京）
久賀みず保（地方筆頭）、佐野雅昭（地方）、副島久実（地方）

2)「漁業経済研究」の編集と発行

●第 69 巻 1 号編集結果（2024 年 7 月 20 日締め切り）

論文区分	投稿数	掲載
論文（シンポ特集）	5	5
論文（自由論題）	1（新規 1）	0
報告論文	3（新規 3）	2
実態分析	0（新規 0）	0
研究ノート	0（新規 0）	0
書評	0（新規 0）	0

●第 69 巻 2 号編集結果（2025 年 1 月 20 日締め切り）

論文区分	投稿数	掲載
論文（自由論題）	1（新規 1）	1
論文（報告論文）	0	0
実態分析	0	0
研究ノート	1（新規 1）	1
書評	2（新規 2）	2

3) ディスカッション・ペーパー・シリーズ
第9巻(2024年度) 1本掲載

(4) 短信関係

以下の4本の短信を発行した。

No. 156 (2024年 5月9日) : 第71回大会報告要旨

No. 157 (2024年 8月20日) : 第71回大会総括

No. 158 (2025年 1月29日) : 第72回大会案内①

No. 159 (2025年 3月31日) : 第72回大会案内②

(5) 学会賞選考委員会報告

第72回大会案内学会賞1件、奨励賞2件の受賞を決定した。

学会賞：水土舎相談役 乾政秀会員 著書『島の暮らしを支える漁業と生業』

奨励賞：水産研究・教育機構 中村智幸会員 内水面漁協に関する研究

全国漁業共済組合連合会 佐々木稔基会員 ワカメ養殖・加工に関する研究

秋谷・加瀬賞：該当無し

(6) その他：大会準備関係

特になし

1. 2024 年度決算報告および監査報告

2024年度決算報告

1. 一般会計

1) 収入の部

大科目	小科目	予算	決算	決算-予算
会費	(小計)	600,000	684,500	84,500
	一般会員		450,000	
	団体会員		230,000	
	賛助会員		4,500	
会誌売上	(小計)	100,000	214,398	114,398
	事務センター扱		214,398	
	事務局扱い		0	
大会収入	(小計)	0	102,000	102,000
	参加費		0	
	懇親会費		102,000	
雑収入	(小計)	0	16,751	16,751
	利息		16,751	
	その他		0	
特別会計からの繰り入れ		1,160,000	1,160,000	0
当期収入合計		1,860,000	2,177,649	317,649
前期繰越金		11,582,726	11,582,726	0
収入合計		13,442,726	13,760,375	317,649

2) 支出の部

大科目	小科目	予算	決算	予算-決算
会誌等印刷費	(小計)	1,100,000	554,400	545,600
	学会誌		440,000	
	短信		114,400	
通信発送費		200,000	172,958	27,042
事務局費		50,000	0	50,000
事務委託費		230,000	259,765	-29,765
ホームページ管理費		200,000	55,000	145,000
会議費	(小計)	350,000	0	350,000
	シンポジウム		0	
	理事会等		0	
	編集委員会		0	
学会賞等賞金		220,000	70,000	150,000
大会経費	(小計)	540,000	456,085	83,915
	要旨集印刷費		0	
	バイト代		80,000	
	懇親会費		109,925	
	シンポ等食費		0	
	会場使用料		0	
	その他		266,160	
雑費		10,000	0	10,000
論文のデジタル化費		6,070,000	5,749,843	320,157
その他		0	0	0
当期支出合計		8,970,000	7,318,051	1,651,949
繰越金		4,472,726	6,442,324	-1,969,598
支出合計		13,442,726	13,760,375	-317,649

2. 特別会計

1) 収入の部

科目	予算	決算	決算-予算
寄付金	0	0	0
当期収入合計	0	0	0
前期繰越金	40,040,663	40,040,663	0
収入合計	40,040,663	40,040,663	0

2) 支出の部

科目	予算	決算	予算-決算
一般会計への繰り入れ	1,160,000	1,160,000	0
論文のデジタル化費	0	0	0
当期支出合計	1,160,000	1,160,000	0
繰越金	38,880,663	38,880,663	0

3. 財産目録

1) 一般会計

種類	預入先	金額
普通貯金	三菱UFJ銀行	-720,427
振替貯金	郵便局	7,145,631
現金		17,120
合計		6,442,324

2) 特別会計

種類	預入先	金額
普通貯金	三菱UFJ銀行	35,439,304
振替貯金	郵便局	3,441,359
現金		0
合計		38,880,663

監査の結果、上記の通り相違ありません。

2025年5月22日

監事 工藤 貴史

印

監事 馬場 治

印

2. 2025 年度事業計画

(1) 会則及び規則類の改訂

漁業経済学会 名誉会員 規程 (案)

1. 名誉会員の定義

会則第九条に基づき、本学会および漁業経済学の発展に特に貢献のあった者を名誉会員とすることができる。

2. 名誉会員の資格

名誉会員に推薦される者の資格は、原則として年齢 70 歳以上で、以下に定める推薦基準を全て満たすこととする。

(1) 70 歳以上の正会員

(2) 本会に 20 年以上在籍し、かつ 10 年以上理事・監事を務めた者

(3) 本会ならびに漁業経済学の発展に顕著な貢献をしたと認められた者。

3. 名誉会員就任の手続き

名誉会員への就任は、次の手続きにより行われるものとする。

(1) 理事は、理事会に対して、名誉会員にふさわしい候補者を、その理由を記した書面により提案することができる。

(2) 理事会は、理事から名誉会員の提案があった場合に審議を行い、名誉会員への就任が妥当と判断したときには、本人の承諾を得たうえで総会に推薦する。

(3) 総会において承認を得た場合、就任を認める。

4. 名誉会員の扱い

名誉会員には、次の各号の事項が適用されるものとする。

(1) 名誉会員の名称をもって会員登録する。

(2) 本会会員としての年会費を免除する。

(3) 役員となることはできない。

(4) 総会等での議決権を有しない。

(5) 上記以外の事項については、正会員と同じ扱いとする。

5. 名誉会員資格の喪失

名誉会員が次の各号のいずれかに該当するときには、その資格を喪失する。

(1) 名誉会員が本会の名誉を傷つけたことにより、理事会が資格を取り消すとき

(2) 本人の申し出があったとき

付則

(1) この規程は、当面適用を保留する。

(2) 学会誌編集計画

【2025 年度学会誌編集計画】

1) 2025 年度編集委員会体制：改選予定

① 編集委員長はすべての責任を負う。

② 編集委員長は編集スケジュールを管理し、進行させる。また、編集総務を行う笹氣出版印刷との調整を行う。

③ 編集委員は在京委員、地方委員を各 3 名選任し、協力して査読者の選任、査読結果の判定についての妥当性判断および編集総務の補助を行う。

④ 編集委員会委員の任期は 2 年で再認可である。

⑤ 編集委員会委員はシンポジウム論文などの依頼原稿を投稿できる。また筆頭著者として論文の一般投稿を認めるが、その場合は当該編集委員が所属しない地域の編集委員が当該投稿論文を担当し、編集総務あるいは地方筆頭委員を中心に査読事務を行う。

2) 編集作業と作業分担

① 編集委員会では各投稿論文に対して査読候補者 2 名と編集担当 1 名（編集委員）を選ぶ。編集委員が投稿者の場合は、これ以降の作業に一切参加させない。

- ② 編集委員長は、編集担当に原稿（電子ファイル）と各種様式（電子ファイル）を送る。
- ③ 編集担当は、査読候補者に連絡し了解を得た後に、投稿原稿と査読様式を査読者に送付する。
- ④ 査読者は、期日までに査読結果を編集担当に送付する。
- ⑤ 編集担当は、2名の査読者からの査読結果を受け、それを取りまとめて最終査読結果（案）を編集委員長に送付する。査読者から期日内に提出されない場合は催促する。
- ⑥ 編集担当の最終査読結果（案）に基づいて編集委員会で適宜審議し、掲載の可否を決定する。
- ⑦ 編集担当は最終査読結果を投稿者に送付する。
- ⑧ 掲載可の原稿については、編集委員長が出版業者に原稿（電子ファイル）を提出する。
- ⑨ 初校は著者が行い、最終稿は編集担当がチェックする。

3) 編集スケジュール（第70巻）

	発行号		備考
	70巻第1号	70巻第2号	
原稿投稿締め切り	7月20日	1月20日	受付日
編集委員会	7月末①	1月末④	
査読			
査読結果回収	8月末	2月末	
編集委員会	9月上旬②	3月初旬⑤	掲載可の場合、受理日
審査結果送付			
修正稿提出締め切り	10月末	4月末	
編集委員会	11月上旬③	5月初旬⑥	掲載可の場合、受理日
発行・送付	1月中旬発行	6月中旬発行	

4) 編集委員会の開催予定と主たる議題

- 第1回編集委員会（2025年7月下旬）：投稿論文の担当者・査読者決定
- 第2回編集委員会（2025年9月上旬）：査読結果審議、書評候補審議
- 第3回編集委員会（2025年11月上旬）：第70巻第1号への掲載可否決定、書評依頼
- 第4回編集委員会（2026年1月中旬）：投稿論文の担当者・査読者決定
- 第5回編集委員会（2026年3月初旬）：査読結果審議
- 第6回編集委員会（2026年5月初旬）：第70巻第2号掲載可否決定

5) 漁業経済研究における北日本漁業研究会の研究集会の報告論文の取り扱いについて

- ・ これまで北日本漁業研究会の研究集会における一般報告を投稿する場合は、2025年度分より「漁業経済研究」における「報告論文」として投稿、審査、掲載していく。なお、「北日本漁業」はシンポジウム報告の内容だけに絞り込んだものとする。

- ・ これに伴う投稿規定の変更

（現）【報告論文】

- (1) 大会一般報告で口頭発表された内容を論文化したもの。内容の定義は「論文」に準じる。

（変更案）【報告論文】

- (1) 大会一般報告や部会研究会などで口頭発表された内容を論文化したもの。内容の定義は「論文」に準じる。

と変更する。

6) 投稿数の促進について

- ① 「報告論文」ならびに「英語論文」の投稿を HP などと呼びかけを行う。ディスカッション・ペーパーについても HP 上で投稿を促していく。

- ② 英語論文の投稿を促進するため、編集委員会が英文ネイティブチェックを学会予算で行う（その必要がある投稿原稿は、通常の締め切りよりも1ヶ月前の投稿を依頼することとする）。

7)「漁業経済研究」の投稿案内

①投稿規定と執筆要領について

2024年2月2日に投稿規定、2024年6月16日に執筆要領を改訂しています。新しい投稿規定と執筆要領をよく読んでご投稿ください。

②編集スケジュール

	発行号		備考
	1号	2号	
原稿投稿締め切り	7月20日	1月20日	受付日
編集委員会	7月末	1月末	
査読			
査読結果回収	8月末	2月末	
編集委員会	9月初旬	3月初旬	掲載可の場合、受領日
審査結果送付			
修正稿提出締め切り	10月末	4月末	
編集委員会	11月初旬	5月初旬	掲載可の場合、受領日
発行・送付	1月中旬発行	6月中旬発行	

③提出方法

投稿者は、編集委員会委員長に、以下の①②の全てを送付すること。

①電子ファイルを電子メールにて添付ファイルとして送付すること。

②「漁業経済研究」投稿原稿送り状（別紙）の電子ファイルを電子メールにて添付ファイルとして送付すること。

提出先：漁業経済学会編集委員会 委員長あて

東京都港区芝浦2-14-13笹氣出版印刷（株）東京営業所内

漁業経済学会

gyokeied@gmail.com TEL：03-3455-4415

(3) 短信関係

以下の3本の短信発行を予定している。

No. 160（2025年5月27日）：第72回大会報告要旨（既に発行）

No. 161（2025年7月下旬）：第72回大会総括

No. 162（2026年1月中旬）：第73回大会案内

(4) 次期大会開催地・日程・シンポジウムテーマ等

2026年6月上旬の土日（予定）

場所：摂南大学（大阪）

3. 2025 年度予算

(1) 一般会計

①収入の部

科目	2025年度	2024年度	増減
会費	680,000	600,000	80,000
会誌売上	100,000	100,000	0
寄付金	0	0	0
大会収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
特別会計からの繰り入れ	1,160,000	1,160,000	0
当期収入合計	1,940,000	1,860,000	80,000
前期繰越金	6,442,324	11,582,726	-5,140,402
合計	8,382,324	13,442,726	-5,060,402

増減：予算額-前年度予算額

②支出の部

科目	2025年度	2024年度	増減
会誌等印刷費	1,100,000	1,100,000	0
通信発送費	200,000	200,000	0
事務局費	50,000	50,000	0
事務委託費	300,000	230,000	70,000
ホームページ管理費	100,000	200,000	-100,000
会議費	0	350,000	-350,000
学会賞等賞金	100,000	220,000	-120,000
大会経費	640,000	540,000	100,000
雑費	10,000	10,000	0
論文のデジタル化費	0	6,070,000	-6,070,000
その他	0	0	0
当期支出合計	2,500,000	8,970,000	-6,470,000
繰越金	5,882,324	4,472,726	1,409,598
合計	8,382,324	13,442,726	-5,060,402

増減：本年度予算額-前年度予算額

(2) 特別会計

①収入の部

科目	2025年度	2024年度	増減
寄附金		0	0
前期繰越金	38,880,663	40,040,663	-1,160,000
収入合計	38,880,663	40,040,663	-1,160,000

②支出の部

科目	2025年度	2024年度	増減
一般会計への繰り入れ	1,160,000	1,160,000	0
論文のデジタル化費	0	0	0
繰越金	37,720,663	38,880,663	-1,160,000
支出合計	38,880,663	40,040,663	-1,160,000

【北日本漁業研究会運営委員会報告】

（１）北日本漁業研究会運営委員会体制（2025 年 4 月 1 日～2027 年 3 月末）

部会長：宮澤晴彦（元北海道大学）

副部会長：濱田武士（北海学園大学）

運営委員：古林英一（北海学園大学）、甫喜本憲（水産大学校）、二平 章（茨城大学客員）、上田克之（水産北海道）、佐々木貴文（北海道大学）、杭田俊之（岩手大学）、大野宣和（岩手県庁）、清水幾太郎（鮭鱒経済研究所）、片山知史（東北大学）、渡邊一功（宮城県庁）、工藤貴史（東京海洋大学）、三木奈都子（水研機構）、植田展大（立命館大学）、望月理生（東北学院大学）

事務局長 佐々木貴文

（２）『北日本漁業』編集委員会体制ならびに『北日本漁業』の発行

『北日本漁業』の編集委員会は、2025 年 6 月 8 日の漁業経済学会総会にて『漁業経済研究』の編集委員会と統合することが承認されました。これに伴い、従来の『北日本漁業』に掲載されていた論文、報告論文については、『漁業経済研究』に収録されることとなり、2026 年発行予定の学会誌からこの運用に移行することが予定されています。『北日本漁業』については、引き続きシンポジウム報告、シンポジウム論文が掲載されます。

（３）第 53 回北日本漁業研究会報告

日時：2024 年 12 月 19 日

場所：北海学園大学教育会館 AV4 教室

方法：現地参加とオンラインでの開催

参加者数：155 人（うち現地参加 60 人）

＜一般報告プログラム＞

第 1 報告（10：00～10：30）

高木景将（東京海洋大学）、尾中謙治（農林中央総合研究所）、工藤貴史（東京海洋大学）

人口減少社会における漁協の総合事業体としての役割-長崎県生月漁協の生活関連事業を事例として-

第 2 報告（10：30～11：00）

刀禰一幸（水産大学校）、佐野雅昭・久賀みず保（鹿児島大学）

日本のイカ輸入における変化の実態-2015 年から 2022 年を対象に-

第 3 報告（11：00～11：30）

堀内 ヤン海舟（笹川平和財団海洋政策研究所）

アフリカ東西海域における大規模な科学調査遠征から読み解く

ロシア漁業外交の新展開-「ソフト・パワー」としての水産科学の役割-

第 4 報告（11：30～12：00）

濱田武士（北海学園大学）

ALPS 処理水の海洋放出が水産業界に与えた影響

＜シンポジウム＞

テーマ：北海道における洋上風力発電の推進状況と漁業-現状から見えてくる課題-

コーディネーター：濱田武士（北海学園大学）

趣旨説明 13：10～13：20 工藤貴史（東京海洋大学）

第 1 報告（13：20～13：35）

西岡孝一郎（北海道経済部ゼロカーボン推進局風力担当局）北海道における洋上風力発電の推進状況

第 2 報告（13：35～14：00）

長谷成人（東京水産振興会）再エネ海域利用法と漁業

第 3 報告（14：00～14：25）

麓 貴光（水土舎）石狩湾における立地構想と漁業調整の経過

第 4 報告（14：30～14：55）

原口聖二（北海道機船漁業協同組合連合会）洋上風力発電の EEZ 内立地の問題

第 5 報告（14：55～15：20）

河邊玲（長崎大学）洋上風力発電立地と科学的判断の考察
 コメンテーター（15：20～15：35）末永芳美（元東京海洋大学）
 討論会（15：40～17：10）司会 工藤貴史（東京海洋大学）

（４）2024 年度決算

2024年度北日本漁業研究会決算

●2024年4月1日より2025年3月31日までの収入状況（第53回大会関係を除く）

会費	3,000
利子・利息	979
会費納入ミスによる収入（次期会計にて支出（返却）の予定）	3,000
郵便局振替口座廃止に伴う繰り入れ	17,000
合計	23,979

●2024年4月1日より2025年3月31日までの支出状況（第53回大会関係を除く）

ニュースレター発行費用	90,530
-------------	--------

●第53回大会関係の支出

シンポジウム登壇者旅費：現金処理（長谷、河邊、原口）	230,000
大会現地運営アルバイト：現金処理（北大学生3人）	30,000
文字起こしアルバイト：現金処理（北大学生3人）	30,000
オンライン対応費：ウェビナー代金	15,674
合計	305,674

●各口座残高・現金残高

北洋銀行口座	1,921,189
ゆうちょ銀行口座	0
現金	138,252

（５）2025 年度予算

シンポジウム登壇者旅費	250,000
大会現地運営アルバイト（5人）	50,000
シンポジウム文字起こしアルバイト	30,000
オンライン対応費	15,674
雑費	10,000
合計	355,674

（６）次期シンポジウム

2026年3月7日（土曜日）を第一候補日として、午前中に一般報告、午後にシンポジウムの開催を計画しています。開催場所は、札幌（北海学園大学）で調整しています。

テーマは「2020年代の日本産水産物の輸出動向ーコロナ・円安・ALPS 処理水・トランプ関税の影響を後景にして」（仮）を予定しています。

【会費納入のお願い】

2025年度の年会費の納入につきまして、同封の払込取扱票にて納入していただきますようお願いいたします。

- ① 正会員 3000円（漁業経済を研究し、会員たる全ての権利を有し、学会運営に参画する者）
- ② 学生会員 無料（漁業経済を研究する定職を持たない学生）
- ③ 賛助会員 1500 円（漁業経済に関心を持ちその研究に協力するが、会誌への投稿や研究集会等での発表を行わず、学会運営への参加の意思も持たない者）
- ④ 団体会員 5000円（漁業経済に関心を持ちその研究に協力する企業や団体、公共機関など）なお、会員管理・会計は笹氣出版印刷株式会社に外部委託しています。連絡先は下記の通りです。

笹氣出版印刷株式会社 担当:古田

TEL: 03-3455-4439（学会事務係共用）E-mail: jimu-gyokei@sasappa.co.jp

お電話の際は漁業経済学会についての問い合わせであることをお申し出ください。

【編集後記】

第 72 回大会は、東京海洋大学で開催されました。大会シンポジウムは「漁業協同組合の過去・現在・未来」をテーマにして、工藤貴史氏（東京海洋大学）と佐野雅昭会長（鹿児島大学）によるコーディネートのもと、佐野雅昭会長によるシンポ趣旨説明、濱田武士氏（北海学園大学）、斎藤昇氏（JF 全漁連）、鈴木崇史氏（鹿児島大学）、阿部富士夫氏（元宮城県漁業協同組合志津川支所長）、工藤貴史氏からの 5 つの報告、その後の熱心な質疑応答が行われました。漁協関係者の参加もたくさんいただき、懇親会も大変盛り上がりしました。翌日の一般報告も、2 会場を使って多岐の分野に渡る 12 題の報告が行われ、櫻井政和氏（水産庁）によるコーディネートでミニシンポジウム「内水面漁協が今すぐにできること」を開催しました。内水面漁協を取り上げるミニシンポジウムもシリーズ化してきており、ますますの研究発展が期待されます。

みなさまからの積極的な大会参加や投稿、シンポジウムやミニシンポジウム企画などをお待ちしています。（副島久実）

漁業経済学会短信No. 161 2025.8.5

事務局（総務：副島久実）

e-mail gyokeisoumu@gmail.com